

サービス業

業況、売上、採算

今期（2022.7～9）の業況判断DIは15.4で、前年同期（2021.7～9）と比べ45.9ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

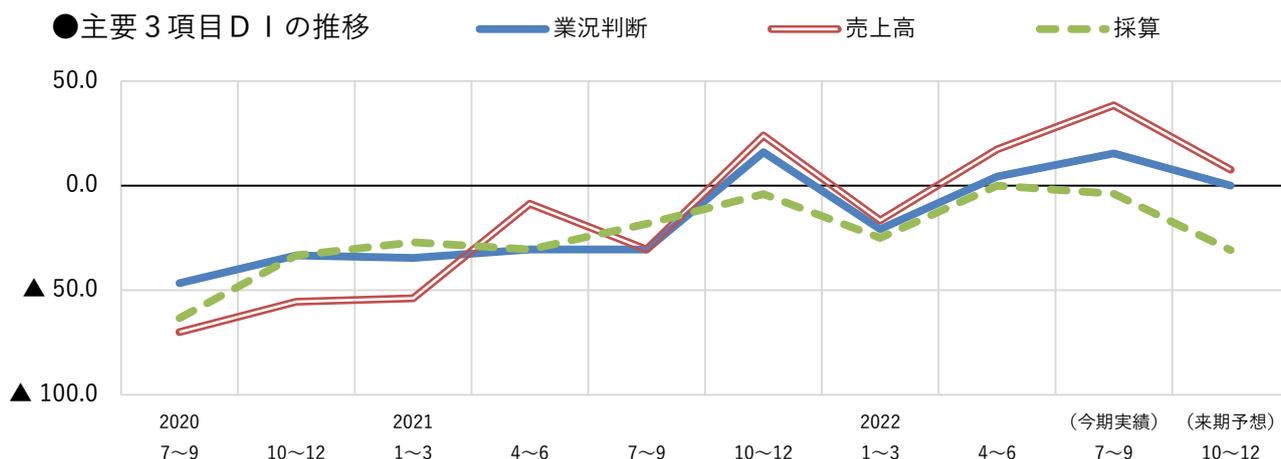
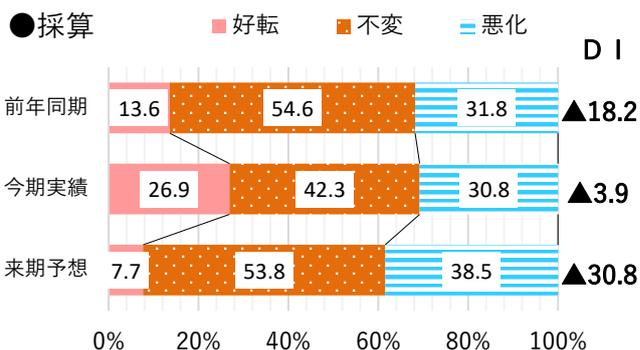
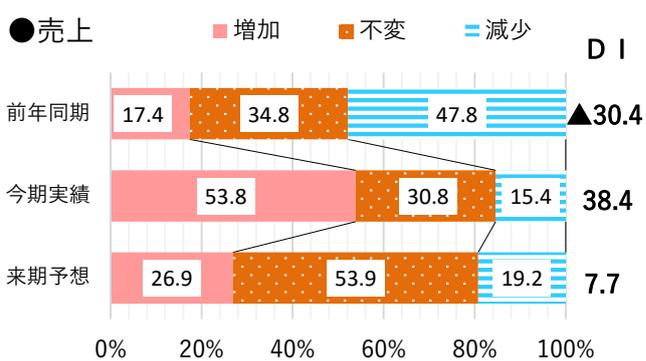
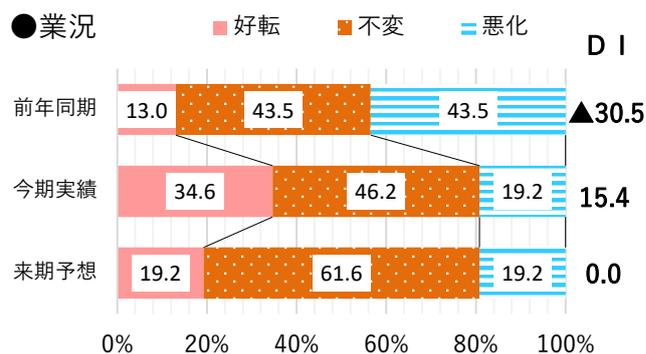
来期（2022.10～12）は、業況の好転傾向が弱まると予想しています。

今期の売上高DIは38.4で、前年同期と比べ68.8ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。

今期の採算DIは▲3.9で、前年同期と比べ14.3ポイント上昇しました。

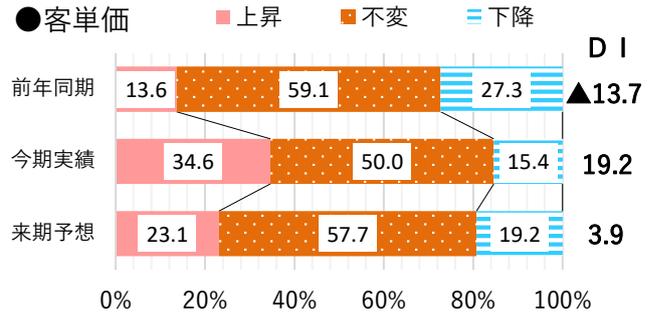
来期は、採算の悪化傾向が強まると予想しています。



客単価、利用客数、仕入単価

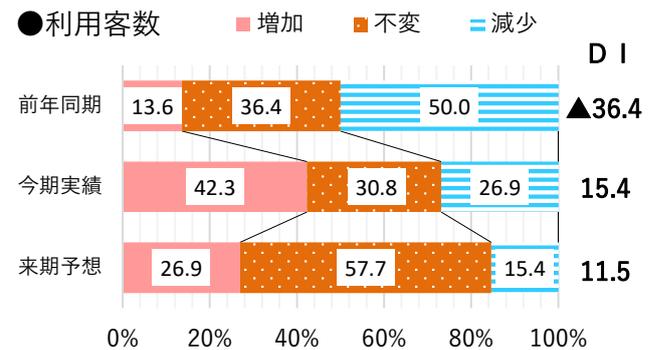
今期の客単価DIは19.2で、前年同期と比べ32.9ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、客単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



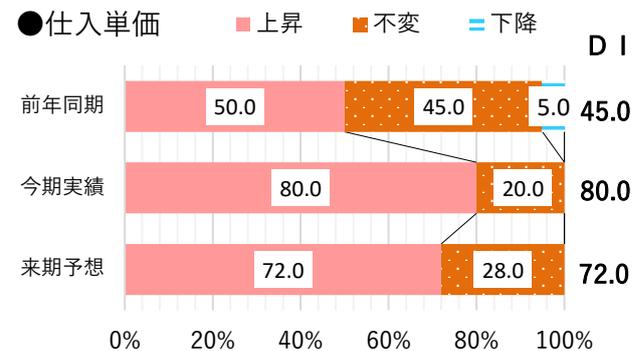
今期の利用客数DIは15.4で、前年同期と比べ51.8ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、利用客数の増加傾向が続くと予想しています。



今期の仕入単価DIは80.0で、前年同期と比べ35.0ポイントと大幅に上昇しました。

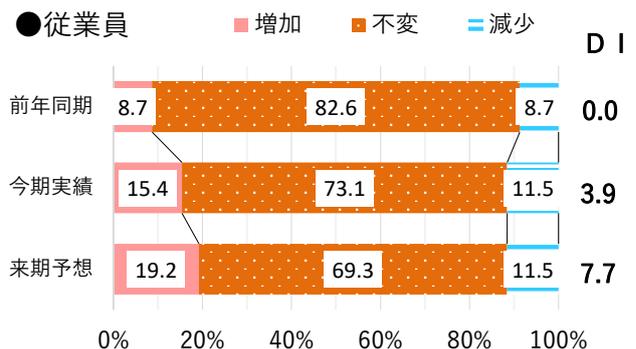
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは3.9で、前年同期と比べ3.9ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、従業員数の増加傾向が強まると予想しています。

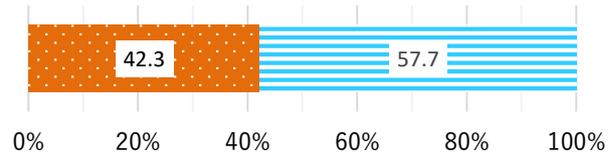


今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は42.3%、不足していると回答した企業の割合は57.7%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答で、サービス業全体の38.4%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答でした。

●今期の雇用状況 ■ 過剰 ■ 適正 ■ 不足



今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	9
	不足	10
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	3

資金繰り、設備投資

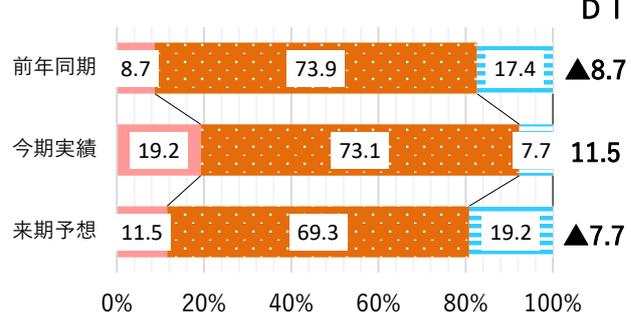
今期の資金繰りDIは11.5で、前年同期と比べ20.2ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、資金繰りがマイナスに転じると予想しています。

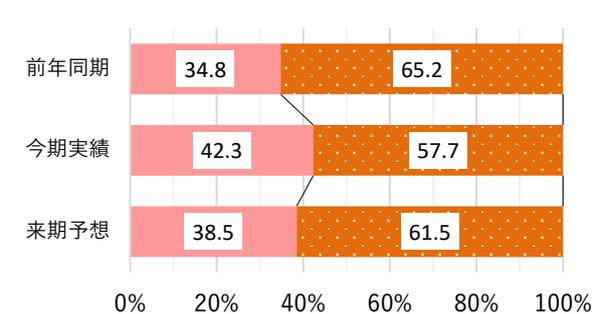
設備投資を実施した企業の割合は42.3%で、前年同期と比べ7.5%増加しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、「OA機器」（同位）、2位が「サービス設備」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は38.5%で、減少を予想しています。

●資金繰り ■ 好転 ■ 不変 ■ 悪化

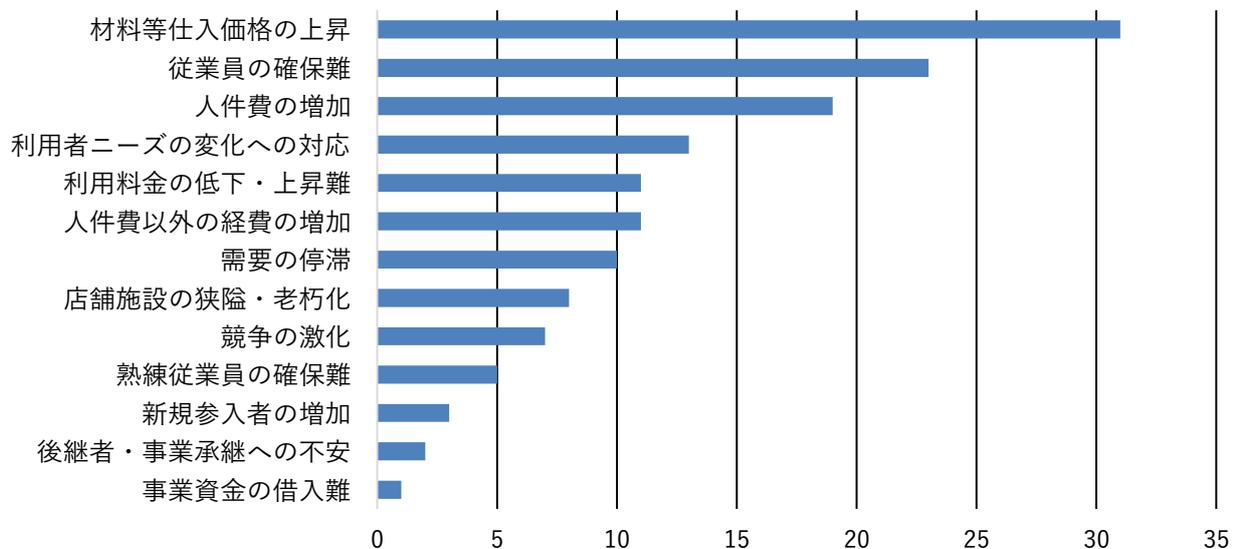


●設備投資 ■ 実施 ■ 未実施



経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「材料等仕入価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「人件費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 行動制限がなかったため、予想以上に好調だった。観光客の利用が落ち着いて来た際に、地元客の利用が回復するのか不安だ。パート従業員を募集しているが応募がないので困っている。(飲食店)
- コロナ禍、円安等でお客様の利用状況が変化していると思う。状況の変化に対応できない小規模事業者は一層苦境に立たされると思う。(飲食店)
- 観光客の増加により売上は増加したが、材料仕入単価と光熱費等経費も増加したため、採算は可もなく不可もない。(飲食店)
- 人材確保に苦労している。(飲食店)
- 昨年度はワクチンの集団接種業務等、特需のような業務により売上が増加したが、今年度はこうした業務がなく売上が減少した。旅行業は客単価が下降したものの、好転した。(旅行代理店)
- 厳しい状況に変わりが無いが、売上は多少好転して明るい兆しが見えてきた。(出版業)
- 利用客数は変わらなかったが、物価高騰のため、オプションの注文を抑える利用客が増え、客単価が上がらなかった。高騰する仕入価格や光熱費をはじめ、全ての経費が利益を減らしている。(美容業)
- 売上は増加したが、原材料価格等の上昇により昨年と同程度の利益だった。(ビルメンテナンス)
- 新型コロナウイルス流行の影響はほぼなくなった。(スポーツ施設)
- 利用客数が戻りつつあるが、材料仕入額が増加した。業況はやや悪化した。(写真業)
- 店頭利用客が減少した。原材料価格と公共料金の値上げが厳しい。(写真業)
- 技能教授業部門は、十分な生徒を確保できている。販売部門は中古品の相場が上がり、仕入が難しい。(教養・技能教授業)
- 医療関連事業を展開していることもあり、コロナ禍でも業績は伸びている。仕入先のメーカーから、仕入価格の値上げ受け入れ要請を多数受けている。工場の燃料費は高止まり状況にある。人材は充足している部署と不足している部署があり、営業人材が特に不足している。(各種物品賃貸業)

[来期の業況について]

- 10月以降も仕入価格の上昇が予想されており、価格転嫁は避けられないと思う。パートやアルバイトの扶養控除の制度は撤廃し、稼ぎたい人は一層働いて稼げるようになれば良いと思う。(飲食店)

- コロナ禍や戦争、円安等の社会状況の変化に対応できなければ業況は悪化する。（飲食店）
- 主力の団体旅行が伸びる見込みのため、売上の増加を期待する。（旅行代理店）
- 新しい業態を模索しており、進捗があれば業況は好転に向かうと思う。（出版業）
- 客数は年末に向けて増える見込みだ。仕入費用はメーカーの割引制度を利用して抑えたい。（美容業）
- 売上の増加を見込むが、原材料費等の上昇により利益は昨年と変わらないと思う。（ビルメンテナンス）
- 最低賃金や諸経費の上昇により、業績の悪化が見込まれる。（ビルメンテナンス）
- 今後も材料の値上げ等が見込まれるため、厳しい状況が続く。（写真業）
- 技能教授業部門の生徒数は少しずつ減っていくと思うが、その他事業を拡大し、売上を維持したい。
（教養・技能教授業）
- 10月の最低賃金引き上げに合わせ、全従業員の給与見直しを予定している。（廃棄物処理業）
- 燃料費、電気代等の高騰を懸念している。請負業務など労働集約型事業も展開しているため、積極的に人材を確保していきたい。（各種物品賃貸業）